

スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

②F₁: 細礫・シルト混じり砂
 基質はシルト質細砂からなる
 礫 (5.5Y 4/6) 5.5YR 4/6

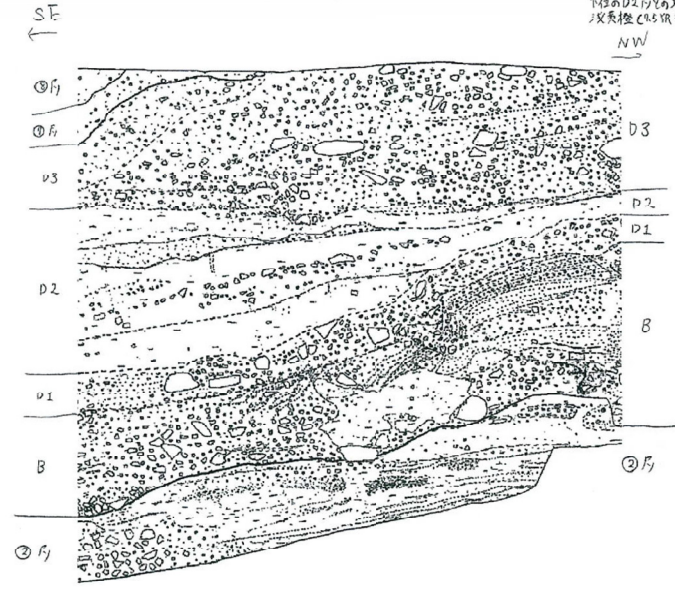
①F₁: 礫混じり砂質シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径20mm程度の礫を含む
 基質はシルト混じり細中粒砂からなる
 下部のD3層との境界は、①F₁が角～中粒砂と礫の混在関係と見られる。
 明礫 (5.5Y 4/6), 明礫 (5.5Y 4/6)

D3: 礫礫
 礫率15~40%、花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10~30mmの礫主体、最大250mmの礫を含む
 基質はシルト混じり砂からなる
 一部に酸化汚染が見られる
 一部に堆積構造が見られる
 下部のD2層との境界は、D3層が角～中粒砂と礫の混在関係と見られる。
 明礫 (5.5Y 4/6), 明礫 (5.5Y 4/6), 明礫 (10.5Y 4/6)

D2: 礫混じり砂質シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10~100mmの礫を含む
 基質はシルト質細砂からなる
 シルト質砂をシルト状に結ぶ
 一部に酸化汚染が見られる
 一部に堆積構造が見られる
 明礫 (5.5Y 4/6), 明礫 (9.5Y 4/6)

D1: 礫礫
 礫率15~30%、花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10~30mmの礫主体、最大150mmの礫を含む
 基質はシルト混じり砂からなる
 一部に酸化汚染が見られる
 一部に堆積構造が見られる
 明礫 (5.5Y 4/6), 明礫 (9.5Y 4/6)

B: 砂礫
 礫率20%、花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10~70mmの礫主体
 基質はシルト混じり細砂からなる
 砂質シルト、細中粒砂と砂礫が互層状を呈する
 一部に酸化汚染が見られる
 一部に堆積構造が見られる
 下部の②F₁との境界は、②F₁が角～中粒砂と礫の混在関係と見られる。
 明礫 (2.5Y 4/6)



②F₁: 細礫・砂混じりシルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径5~10mm程度の礫を含む
 基質はシルト混じり細砂～砂質シルトからなる
 砂礫、砂質シルトをシルト状に結ぶ
 堆積構造が見られる
 一部に酸化汚染が見られる
 灰白 (2.5Y 4/6)

法面勾角27.5° 作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

0 1m
 原電道路ピット東向き法面② 1/20

スケッチ

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022

作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

No.	スケッチ名	0-10トレンチ 原電道跡ピット南向き法面 1/20 ⑧記事	地層の性状に関する記事	適正化するべき記事内容	スケッチ原図(第四系)											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
					地質名	・粒度構成、種の構成、形状、構造、硬さ、粘り具合	・種の風化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、断面と異なる状況や特徴的な点があれば、それらについて記載。	地層境界	・断面構成の整合、不整合関係が認定できる場合は、その種類も併せて記載。	地層構造	・層理、葉理、風化	土壌化など、地層環境・時間関係を示すもの	走向・傾斜		・地層構造やせん断面の走向・傾斜を記載。	・その面を最も代表する箇所を指定する(局所的に面曲や方向が変化した箇所では測定しない)。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	・地層中の高圧性の割れ目開閉、割れ目面の地層物の付着と増進の色調、高圧性の代表的な割れ目の走向・傾斜、種類、充填などを記載。
2			⑧層 粘質・砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径50mm以下の礫を含む。 高質シルト質中粒砂～砂質シルトからなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造がみられる。 灰白(2.5Y7.1)	-																		
4			砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～70mmの礫主体。 高質シルト質中粒砂からなる。 高質シルト質中粒砂～細砂が層理を呈する。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造がみられる。 下部のD2層との境界は、空層を削り込んで埋積している。 浅黄(2.5Y7.3)	-																		
1			砂礫 礫率10～20% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～30mmの礫主体。最大150mmの礫を含む。 高質シルト質中粒砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造がみられる。 明黄(7.5YR6.6)	-																		
2			粘質シルト質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～100mmの礫を含む。 高質シルト質中粒砂からなる。 シルト質中粒砂～中粒砂に転じる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造がみられる。 に白(5.5YR6.4) 明黄(7.5YR6.6)	-																		
3			砂礫 礫率15～40% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～30mmの礫主体。最大250mmの礫を含む。 高質シルト質中粒砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造がみられる。 下部のD2層との境界は、D3層が削り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 浅黄(7.5YR6.4) 黄(7.5YR6.6) 明黄(10YR6.6)	-																		
7			粘質シルト質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径30mm程度の礫を含む。 高質シルト質中粒砂～中粒砂からなる。 下部のD3層との境界は、D2層が削り込んで不整合関係と考えられる。 明赤(5YR6.6) 黄(7.5YR7.6)	-																		
8			粘質シルト質シルト 高質シルト質中粒砂からなる。 黄(5Y6.6)	粘質・シルト質中粒砂 高質シルト質中粒砂からなる。 黄(5Y6.6)																	色調(黄)と、色調を示す記号(5Y6.6)が整合していない。当該本頁を修正し、色調(黄)が適切。色調を示す記号の書き間違いであると判断した。	
No.	破砕帯に関する記事		適正化するべき記事内容		破砕帯											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
					破砕帯区分(Hc/Hb/Hg)	破砕帯の性状 ・破砕帯内物質 ・塊状 ・破砕帯の連続性・連続性 ・断面構成が認められる破片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核の有無	内部構造 ・塊状構造、塊状構造、葉理構造、葉理構造、網目状構造など	断面帯区分 ・新層がウジ・新層 角層・カクレ層・サイ(実測できる場合) に区分し記載	破砕帯	最新活動面(認定した場合)	各種	性状・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を指定する。あるいは、主として断面について複数点で測定する。								

スケッチ名D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ④ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

①F: 花崗岩(り)砂質シルトへ砂礫
礫率10~40%。花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径30mm以下の礫が主體
基質はシルト泥(り)細~中粒砂からなる。
一部に堆積構造が見られる。
下部のD3Fとの境界は②Fが判り込みに連続していることから
不整合関係はとらえておらず。
明礫(5YR 5/6)、橙(7.5YR 7/6)

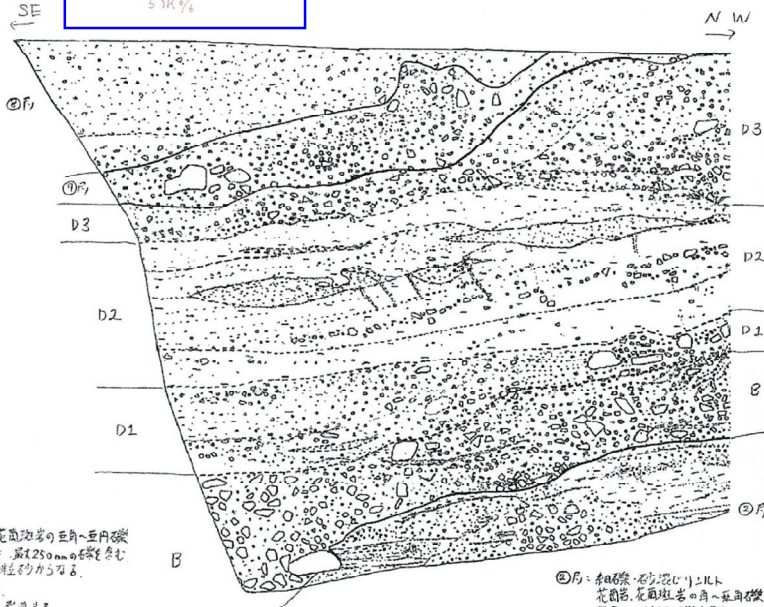
D3: 砂礫
花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径10~30mmの礫を主體。最大250mmの礫を含む。
基質はシルト泥(り)砂からなる。
一部に礫化現象が見られる。
明礫(5YR 5/6)、橙(7.5YR 7/6)、明礫(4.5YR 6/6)

D2: 花崗岩(り)砂質シルト
花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径10~100mmの礫を含む。
基質はシルト~中粒砂からなる。
シルト質砂を主體に含む。
一部に礫化現象が見られる。
一部に堆積構造が見られる。
明礫(5YR 5/6)、明礫(4.5YR 5/6)

D1: 砂礫
礫率15~30%。花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径10~30mmの礫を主體。最大150mmの礫を含む。
基質はシルト泥(り)砂からなる。
一部に礫化現象が見られる。
砂質シルトを主體に含む。
一部に堆積構造が見られる。
下部のB層とは、D1Fが判り込みに連続していることから
不整合関係はとらえておらず。
明礫(7.5YR 6/6)、明礫(7.5YR 5/6)

B: 砂礫
礫率2%。花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径10~100mmの礫を主體。最大250mmの礫を含む。
基質はシルト泥(り)砂からなる。
細~中粒砂を主體に含む。
一部に堆積構造が見られる。
一部に礫化現象が見られる。
明礫(2.5Y 7/6)

②F: 細礫・シルト泥(り)砂
花崗岩、花崗斑岩の五角礫
径20mm以下の礫を含む。
基質はシルト質細砂からなる。
橙(5Y 7/6)



②F: 細礫・砂質シルト
花崗岩、花崗斑岩の五角~亜円礫
径50mm以下の礫を含む。
基質はシルト泥(り)細粒砂~砂質シルトからなる。
砂質シルトを主體に含む。
一部に堆積構造が見られる。
一部に礫化現象が見られる。
灰白(2.5Y 9/1)

原電道路ピット東向き法面 ④ 1/20
走向方位 75~80°

作成日・確認日: 2022年3月28日
確認者: [Redacted]

スケッチ名: D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

⑧層

- ・紫田礫・シルト混じり石砂
- ・木登(5Y6/6) 5YR6/6
- ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角礫, 径10mm以下の石礫を多量
- ・基質はシルト質系田砂になる。

⑦層

- ・石礫混じり砂質シルト～砂礫
- ・明赤系層、木登(5YR 5/6, 7.5YR 6/6)
- ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角～亜円石礫, 径20mm以下の石礫主体。
- ・基質はシルト混じり系田中粒砂になる。
- ・下位のD3層との境界は、D3層中の堆積構造と連続していることから不整合関係であると考えられる。
- ・礫率17～15%
- ・下部ほど石礫の含有率が多い。

D3

・砂礫～シルト混じり系田砂

・浅黄赤層、木登、明赤層(7.5YR 8/4, 7.5YR 6/6, 10YR 6/6)

・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜角礫, 径10～300mmの石礫主体。

・礫率15～30%

・基質はシルト混じり砂になる。

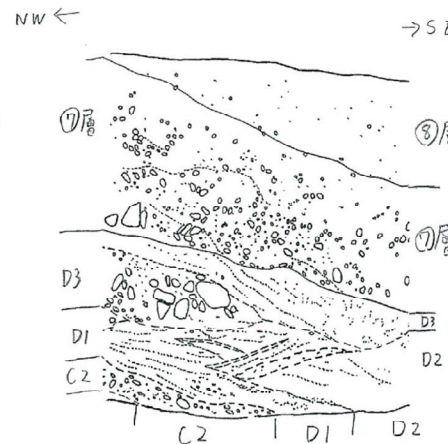
・一部に酸化汚染が見られる。

・堆積構造が見られる。

・下位のD1層、D2層との境界は、D3層が削り込んで連続していることから、不整合関係であると認められる。

D2

- ・シルト質砂
- ・浅黄赤層、明赤層(5YR 6/4, 7.5YR 5/6)
- ・中粒砂になる。
- ・堆積構造が見られる。



D1

- ・砂礫
- ・木登、明赤層(7.5YR 6/6, 7.5YR 5/6)
- ・礫率15～30%
- ・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜円石礫, 径10～300mmの石礫主体
- ・基質は砂になる。
- ・堆積構造が見られる。

C2

- ・砂礫
- ・木登、明赤層(7.5YR 6/6, 7.5YR 5/6)
- ・礫率15～20%
- ・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜円石礫, 径10～100mmの石礫主体。
- ・基質はシルト混じり細粒砂になる。
- ・一部に酸化汚染が見られる。
- ・弱く堆積構造が見られる。

法面口角28°



作成日・確認日: 2022年3月28日
確認者: [Redacted]

D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 ③ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基盤後)			記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
			地質名	地質的特徴	地層構造	地層構造の整合・不整合関係の認定できる者	地層構造の整合・不整合関係の認定できない者	地層構造の整合・不整合関係の認定できない者	土壌化など、地層構造・時空関係を示すもの	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜		走向・傾斜		
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径10~100mmの礫主体。 基質はシルト質細砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘・粘質構造が認められる。 層(7.5YR6/6) 明礫(7.5YR5/6)	-																	
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径10~100mmの礫主体。 基質はシルト質細砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘・粘質構造が認められる。 層(7.5YR6/6) 明礫(7.5YR5/6)	-																	
	シルト質砂 中粒砂が中心を占める。 粘・粘質構造が認められる。 層(5YR6/4) 明礫(7.5YR5/6)	-																	
	砂礫~シルト質細砂 礫高10~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径10~100mmの礫主体。 基質はシルト質細砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘・粘質構造が認められる。 下位のD1層、D2層との境界は、D3層が有り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 実質層(7.5YR6/4) 層(7.5YR6/6) 明礫層(7.5YR5/6)	-																	
	礫質シルト質砂 礫高7~15% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径20mm以下の礫主体。 基質はシルト質細砂からなる。 層(7.5YR6/6) 下位のD1層との境界は、D3層が有り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 下位は粘質の含有率が多い。 明赤層(5YR6/6) 層(7.5YR7/6)	-																	
	細礫・シルト質細砂 花崗岩、花崗斑岩の角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 層(5YR6/6)	細礫・シルト質細砂 花崗岩、花崗斑岩の角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 層(5YR6/6)																	色調(層)と、色調を示す記号(5YR6/6)が一致していない。表面写真を確認し、色調(層)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
No.	礫砂層に関する記事	適正化すべき記事内容	礫砂層													記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
礫砂層区分(Hc/Hd/Hg)	礫砂層の性状	礫砂層の物質	内積構造	断面区分	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層		礫砂層	礫砂層	礫砂層

スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ



- ⑦層
- ・石礫混じり砂質シルト～石礫
 - ・明赤不局、橙(5YR5/6、7.5YR7/6)
 - ・花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円石礫、径30～400mmの石礫主体。最大径500mmの石礫を含む。
 - ・石礫率20%
 - ・基質はシルト混じり系土～中粒立石砂となる。

- ⑧層
- ・石礫、シルト混じり砂
 - ・木登(5Y6/6) 5YR6/6
 - ・花崗岩、花崗斑岩の亜角石礫、径20～400mm程度の石礫主体。最大600mmの石礫を含む。石礫率5～10%。
 - ・基質はシルト質系土となる。
 - ・石少石礫混じり砂質シルト、石少混じり系土、石少質シルトをレンズ状～層状に挟む。

作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

D-1トレンチ原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022
作成日 3/27 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.7.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
			地質的特徴				地層構造			土壌化など、地層構造・地層構造で色調を示すもの				スケッチ原図(基準層)					
			・粒度構成、理の種別、土状、塊状、層状、厚さ、層厚	・隙の風化	・含有物(有機質、頁岩など)	・その他、崩壊しやすくなる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記す。	・地層境界の整合・不整合	・地層構造	・層理、葉理、柱状	・土壌化など、地層構造・地層構造で色調を示すもの	・走向・傾斜	・地層構造やせん断面の走向・傾斜を記載。		・その面を最も代表する箇所を測定する。局所的に崩壊や方向が変化している箇所では測定しない。	・方位・傾斜	・方位・傾斜	・方位・傾斜	・方位・傾斜	
	砂質シルト～砂礫 標準20%。 ① 花崗岩、花崗斑岩の基岩～厚円礫、径30～40mmの礫主体、最大500mmの礫を含む。 ② 基質はシルト質しりごみ～中粒砂からなる。 標(5177/8)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
	シルト質しりごみ 花崗岩、花崗斑岩の基岩、径20～40mm程度の礫主体、最大600mmの礫を含む。 標準5～10% ① 基質はシルト質しりごみからなる。 ② 砂質シルト質しりごみ、砂質シルトをレンベク～層状に挟む。 標(5178/9)	シルト質しりごみ 花崗岩、花崗斑岩の基岩、径20～40mm程度の礫主体、最大600mmの礫を含む。 標準5～10% ① 基質はシルト質しりごみからなる。 ② 砂質シルト質しりごみ、砂質シルトをレンベク～層状に挟む。 標(5178/9)	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調(層)と、色調を示す記号(5178/9)が整合していない。法面写真を確認し、色調(層)が正しい。色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
	-	-	破砕部の性状 ・破砕部の種別 ・破砕部の物質 ・破砕部の量・連続性 ・破砕部が認められる岩片を主体とし、基質も崩壊した岩片からなる破砕部の有無	内部構造 ・構造構造、塊の構造 ・構造構造、塊の構造 ・構造構造、塊の構造	断面区分 ・断面区分 ・断面区分	破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 原電・ふげん道路ピット_⑧層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
原電ケ道路ツ東向き原図③法面ス	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)		
原電ケ道路ツ東向き原図④法面ス	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)	細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6) 礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。	・礫率は観察面が最も広い原電道路頂部スケッチ原図④の記載を全体の代表とした。 ・色調(橙)と、色調を示す記号(5Y6/6)が整合していない。観察面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
ふげんケ道路ツピット原図③東法面	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)		
原電ケ道路頂部スケッチ原図④	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5Y6/6)	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5YR6/6)		

原電道路・ふげんピット写真

153のエビデンス (10/10)

東向き法面



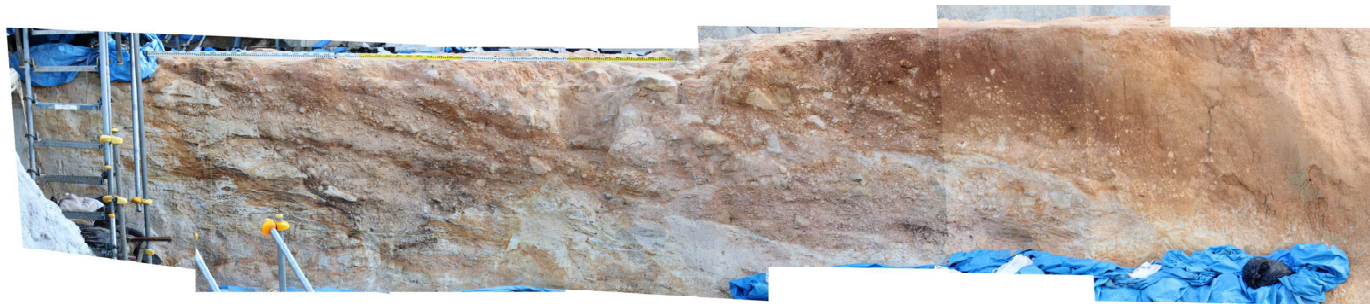
2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影

ふげん道路
東法面



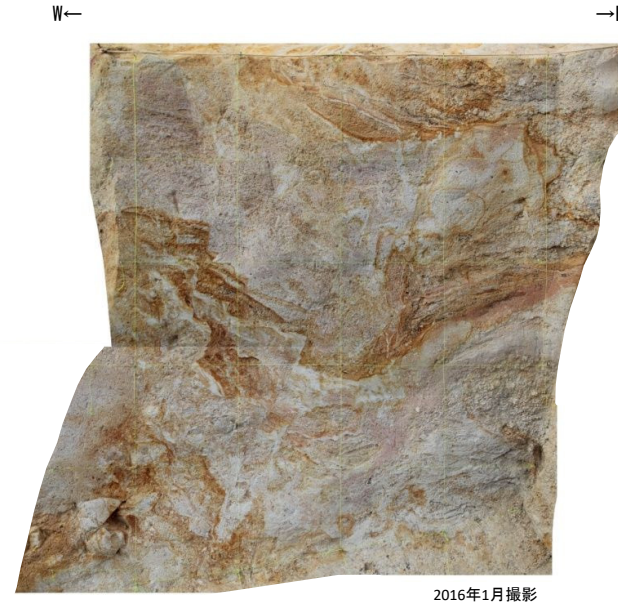
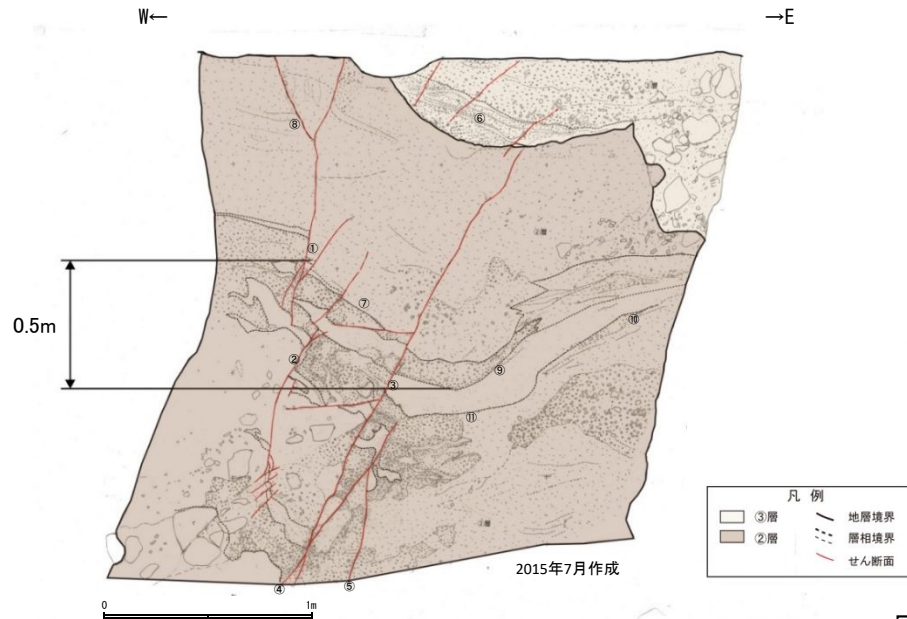
2015年10月撮影

2m

K断層の性状(ふげん道路ピット)

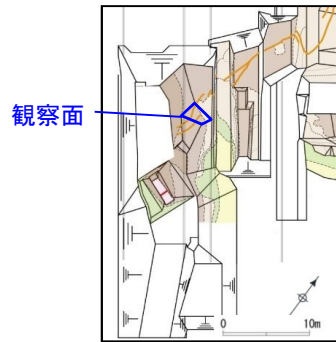
修正前

第536回審査会合
参考資料(1/3) 修正



K断層は数条に分岐しており、②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① f : N29° W75° W | ⑥ b : N75° W39° N |
| ② f : N25° E76° W | ⑦ b : N30° W26° E |
| ③ f : N14° W62° W | ⑧ b : N57° W9° W |
| ④ f : N35° E75° W | ⑨ b : N77° E2° S |
| ⑤ f : N1° W70° W | ⑩ b : N47° E21° SE |
| f : せん断面 | ⑪ b : N5° W 10° W |
| b : 層理面 | |



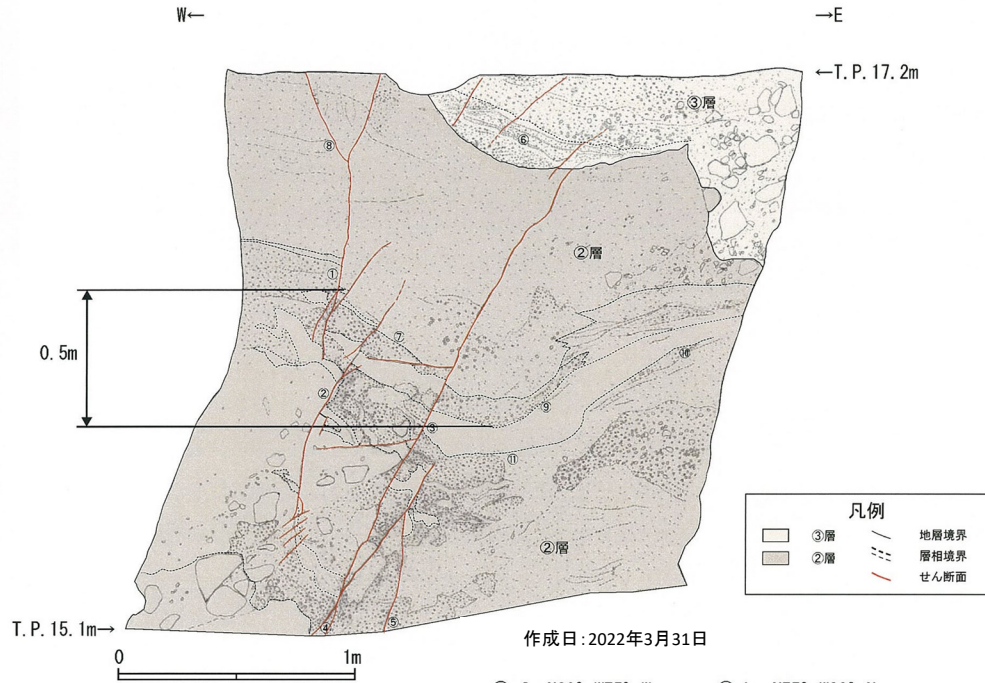
調査位置図

- ③層：砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色 (10YR7/4～25Y6/11)
礫は径20cm以下の角～垂角礫主体である。礫率30～50%
基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。
礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、
径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12～2.5Y7/2)
細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

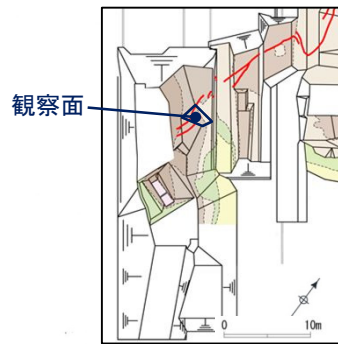
K断層の性状(ふげん道路ピット)

154, 155 : ②層, ③層の色調修正

・K断層は数条に分岐しており, ②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。



- ① f : N29° W75° W ⑥ b : N75° W39° N
- ② f : N25° E76° W ⑦ b : N30° W26° E
- ③ f : N14° W62° W ⑧ b : N57° W9° W
- ④ f : N35° E75° W ⑨ b : N77° W2° S
- ⑤ f : N1° W70° W ⑩ b : N47° E21° SE
- f : せん断面 ⑪ b : N5° W10° W
- b : 層理面



調査位置図

- ③層: 砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色 (10YR7/4～2.5Y6/1)
 礫は径20cm以下の角～垂角礫主体である。礫率30～50%
 基質は中粒砂～粗粒砂であり, 淘汰極めて悪い。
 礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり,
 径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/1～2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり, 径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

ふげん道路ピット東法面中段スケッチ

青枠：②層，③層の色調に関する部分

154, 155のエビデンス (1/6)

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ

①層Ⅰ
 ・石灰質
 ・1.2cm程度の塊石(0.5cm程度)が散在する。
 ・砂質土質で、角礫が主体である。
 ・砂質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の②層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

②層Ⅰ
 ・石灰質
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の③層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

③層Ⅰ
 ・石灰質
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の④層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

④層Ⅰ
 ・石灰質
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑤層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S1 ①層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の②層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S2 ②層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の③層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S3 ③層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の④層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S4 ④層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑤層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S5 ⑤層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑥層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。



S6 ①層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の②層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S7 ②層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の③層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S8 ③層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の④層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S9 ④層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑤層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S10 ⑤層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑥層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S11 ⑥層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑦層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S12 ⑦層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑧層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S13 ⑧層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑨層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S14 ⑨層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑩層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S15 ⑩層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑪層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S16 ⑪層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑫層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S17 ⑫層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑬層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S18 ⑬層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑭層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S19 ⑭層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑮層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S20 ⑮層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑯層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

S21 ⑯層Ⅰ
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・石灰質土質で、角礫が主体である。
 ・厚さ10cm程度。
 ・下位の⑰層と境界が不明瞭で、連続しているように見える。

法面勾配 35°

a: F17°2'W 75°W
 b: F17°2'W 75°W
 c: F17°2'W 75°W
 d: F17°2'W 75°W
 e: F17°2'W 75°W
 f: F17°2'W 75°W
 g: F17°2'W 75°W
 h: F17°2'W 75°W
 i: F17°2'W 75°W
 j: F17°2'W 75°W
 k: F17°2'W 75°W

1: N80°W 9°W
 2: N80°E 3°E
 3: N40°W 15°W
 4: N40°E 10°E

D-1トレンチふげん道路ピット中段 1/10
 作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 ②層の記載)

作成日 2022.6.17

作成者

確認日 2022.6.17

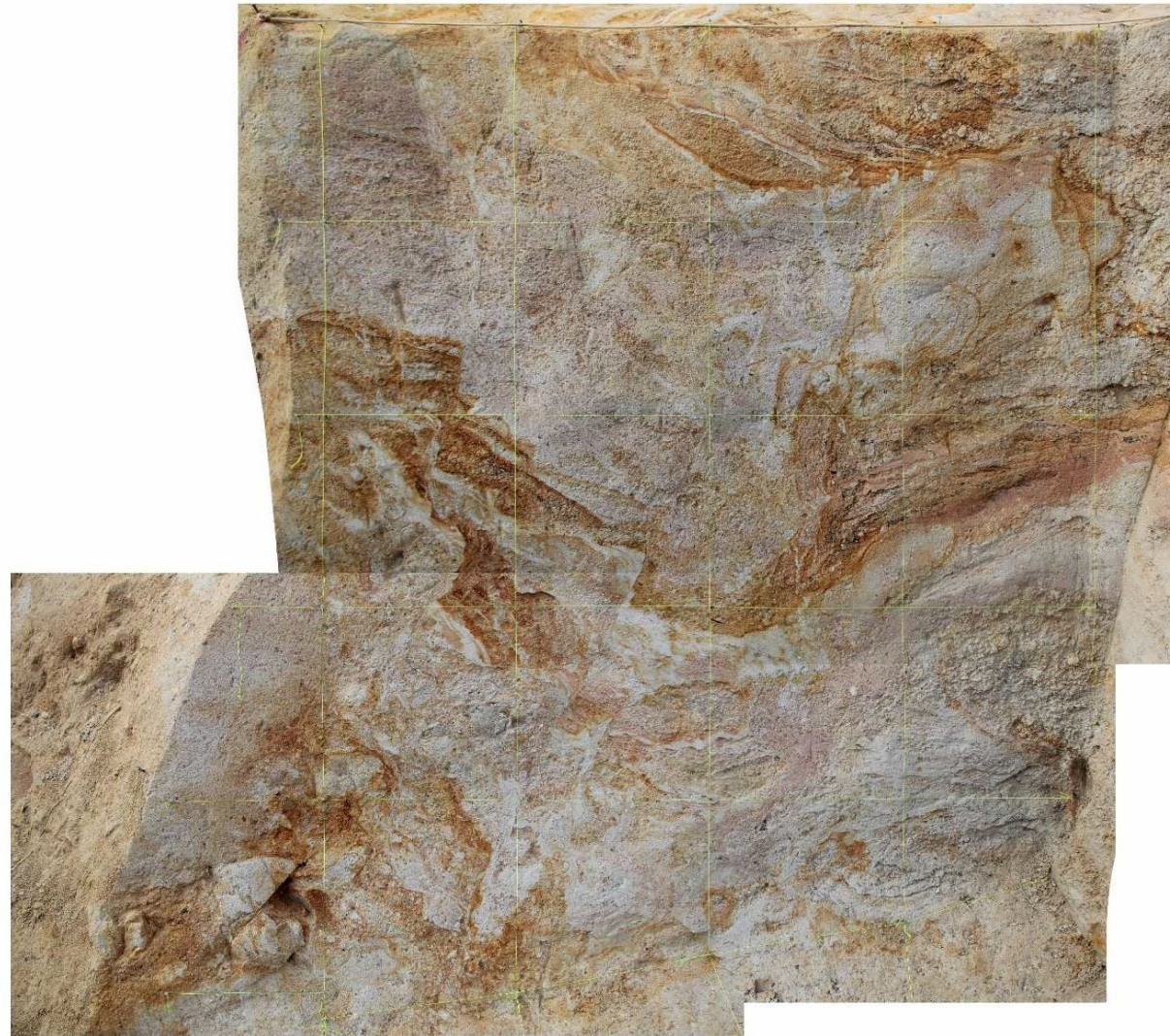
確認者

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input type="checkbox"/>	選定した記事内容	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ 削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容 としている場合は、それとの変更点)
②層 I	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	②層・礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層 II	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 まれに最大径18cmの礫を含む。 よく締まっている。 ②層 I 中に挟まれて分布する。			

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段_③層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
③層 I	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/11) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>③層:砂礫 にふい橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。</p>	<p>・色調(黄灰色)と、色調を示す記号(2.5Y6/11)が整合していない。 観察面写真を確認し、色調(黄灰色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。</p>
③層 II	<p>礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。 砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。 ラミナが発達する。 砂礫層中に挟在して分布する。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>			

2015年7月撮影



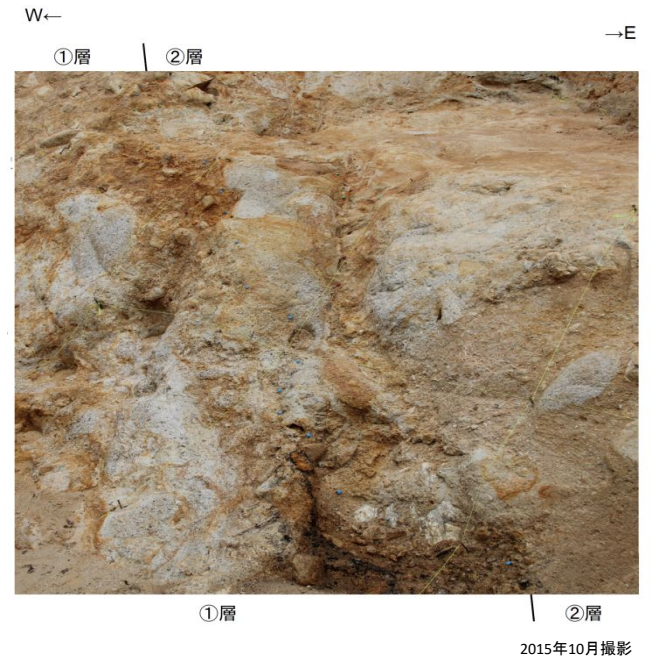
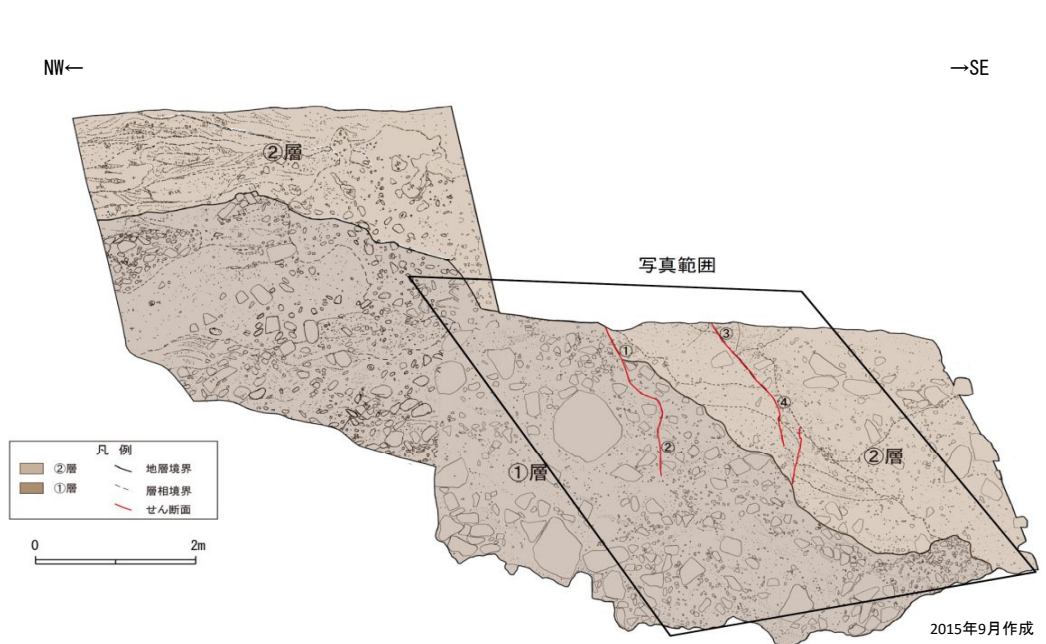
50cm



K断層の性状(ふげん道路ピット)

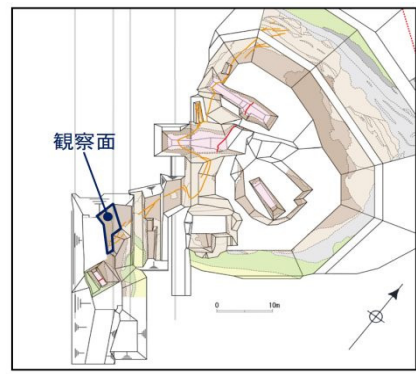
156 (ふげん道路ピット東法面下段) 修正箇所: 橙色枠

K断層の南方への連続性を追跡, 確認した結果, K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色~灰黄色 (2.5Y7/12~2.5Y7/2)
細粒砂~粗粒砂からなり, 径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。
- ①層: 砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)
礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30~60%であり, 淘汰は悪い。
基質は粗~中粒砂で固く締まっている。

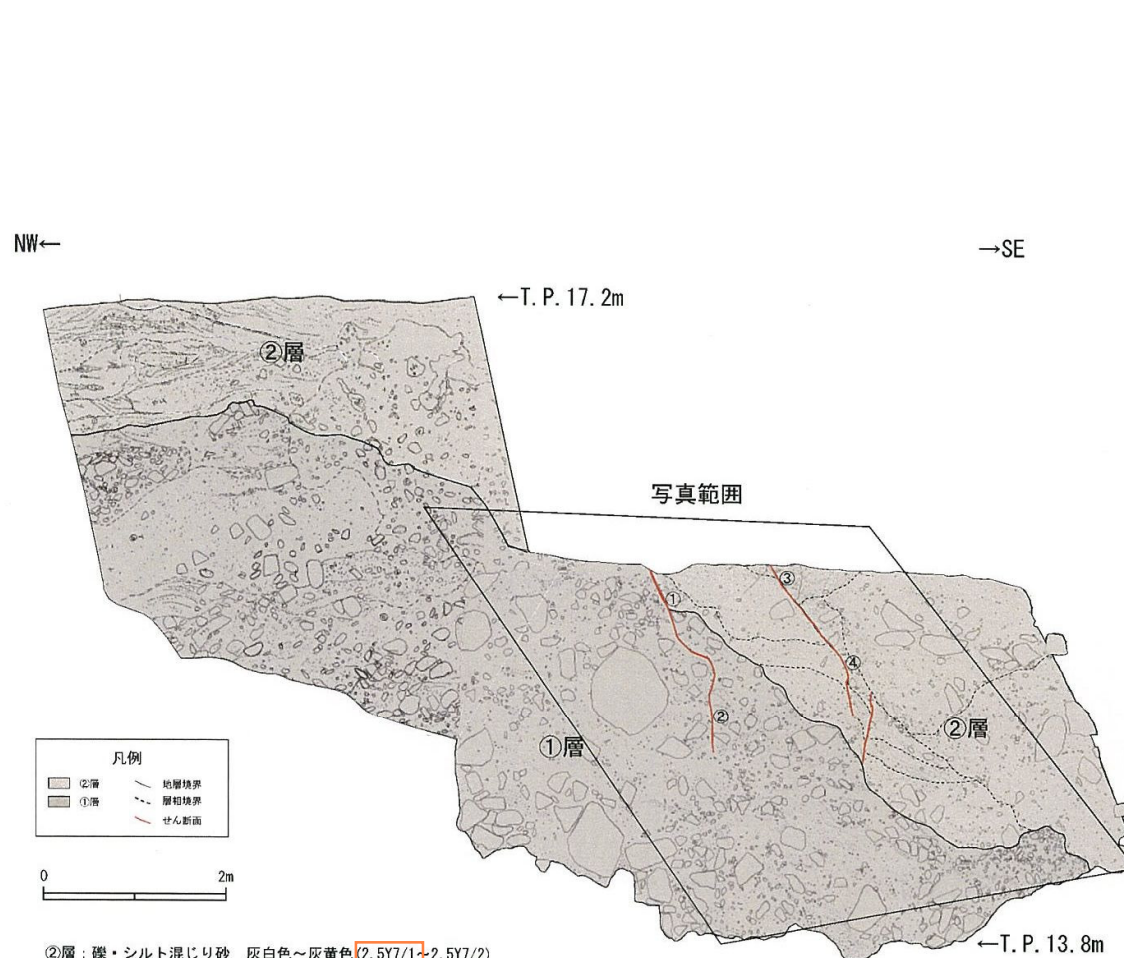
- ① f: N31° W62° W
- ② f: N1° W58° W
- ③ f: N5° W67° W
- ④ f: N1° E47° W
- f: せん断面



調査位置図

K断層の性状(ふげん道路ピット)

K断層の南方への連続性を追跡, 確認した結果, K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



凡例	
②層	地層境界
①層	層相境界
せん断面	せん断面

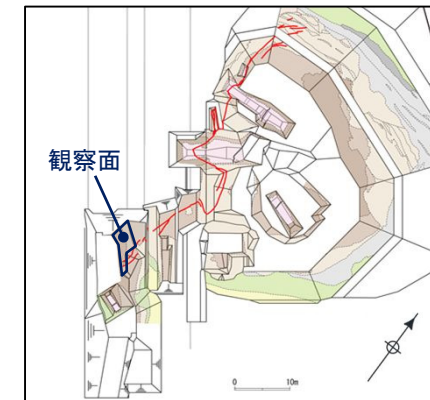
0 2m

②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1)
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層: 砂礫 にぶい赤褐色(5YR4/3)
 礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30~60%であり、淘汰は悪い。
 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

- ① f: N31° W62° W
- ② f: N1° W58° W
- ③ f: N5° W67° W
- ④ f: N1° E47° W
- f: せん断面

作成日: 2022年3月31日



調査位置図



撮影: 2015年10月

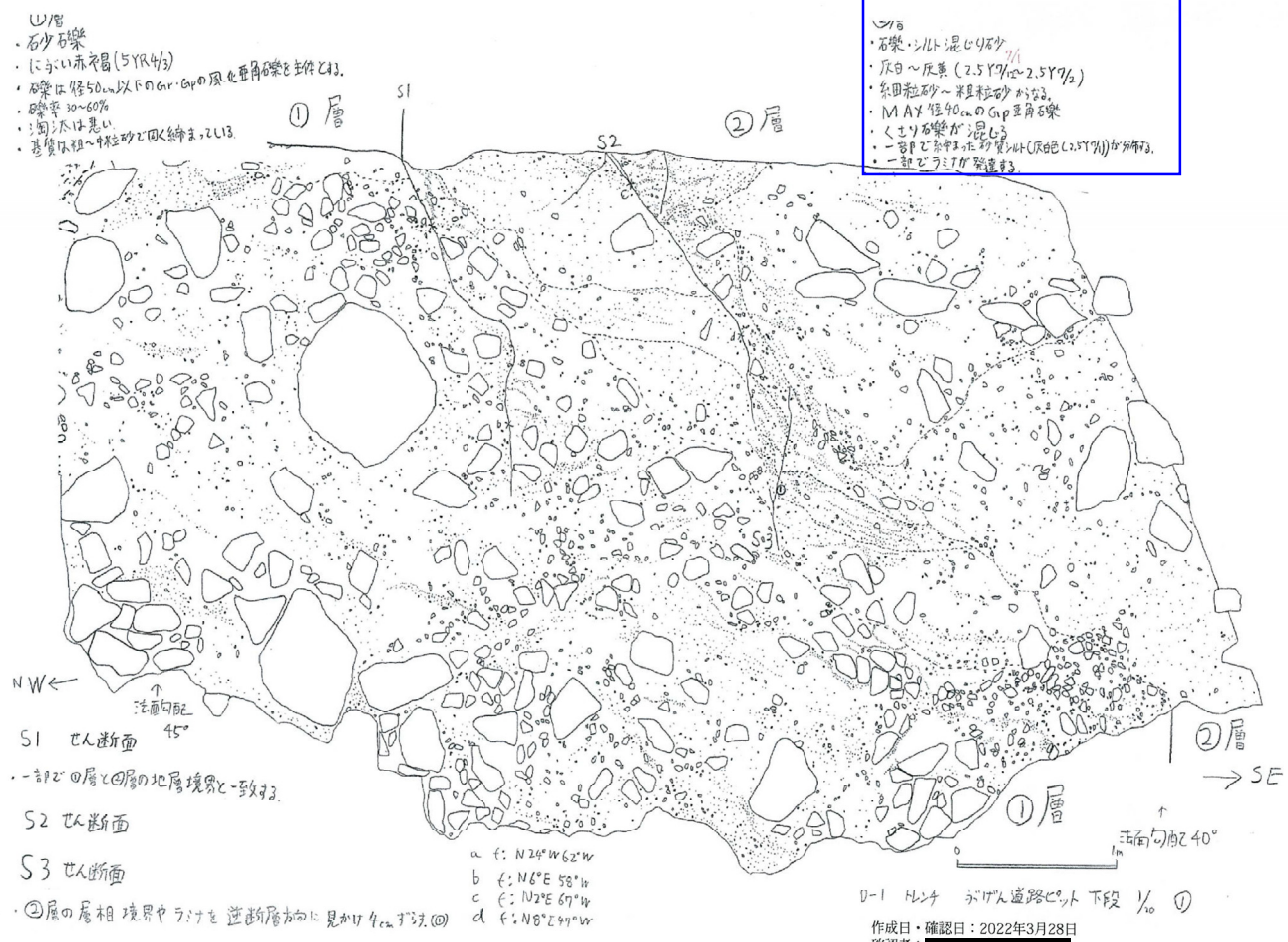
青枠：②層の色調に関する部分

156のエビデンス (1/5)

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ



青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤地)			記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			地質名	地質の特徴				地層境界	地質異変の割合・不整合層が認定できる場合は、その場所も併せて記載	地層構造	土質化など 地層構造・時間関係を示すもの	定向・傾斜	定向・傾斜	定向・傾斜	色調			
				粒度構成、隙間の充填状況、浸透性、透水性、含水率	硬さの風化	含有物(有機質、異状など)	その地 層と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載										地質異変の割合・不整合層が認定できる場合は、その場所も併せて記載	地層構造
2	②層 細砂～粗砂からなる。MAYは40cmのGpを有する。一部で粗砂と砂質シルト(灰白色(2SY7/1))が分布する。一部でラマナが発達する。	細砂～粗砂からなる。MAYは40cmのGpを有する。一部で粗砂と砂質シルト(灰白色(2SY7/1))が分布する。一部でラマナが発達する。																色調(灰白色)と、色調を示す記号(2SY7/12)が一致しない。追加写真を確認。色調(灰白色)が正しいと、色調を示す記号の書き換えが必要であると判断した。
	砂礫 ①にS11赤褐色(SYB4-7)は、厚さ50cm以下のGp+Gpの風化垂角礫を主体とする。浸透性0～50%。海浜は悪い。底質は粗～中粒砂で固く締まっている。																	

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由					
			破砕度区分(Hz, Hb, Hc)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部内物質 ・破砕部の連続性・連続性 ・破砕部が認められる層片を主体とし、裏層も破砕化した地層からなる地層の特徴	内部構造 ・塊状構造、接合面構造、異層構造、網目状構造など	断面区分 断面がランダムに区別し記載	破砕傾 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	定向・傾斜 ・その面を最も代表する層片で測定する。あるいは、主要断面について複数面で測定する。						
a	F.N24* W62* W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
b	F.N8* E58* W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
c	F.N2* E57* W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
d	F.N8* E47* W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S1	せん断面 一部で①層と②層の地層境界と一致する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S2	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S3	せん断面 ②層の層理構造やラマナを逆断層方向に見かけ4cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

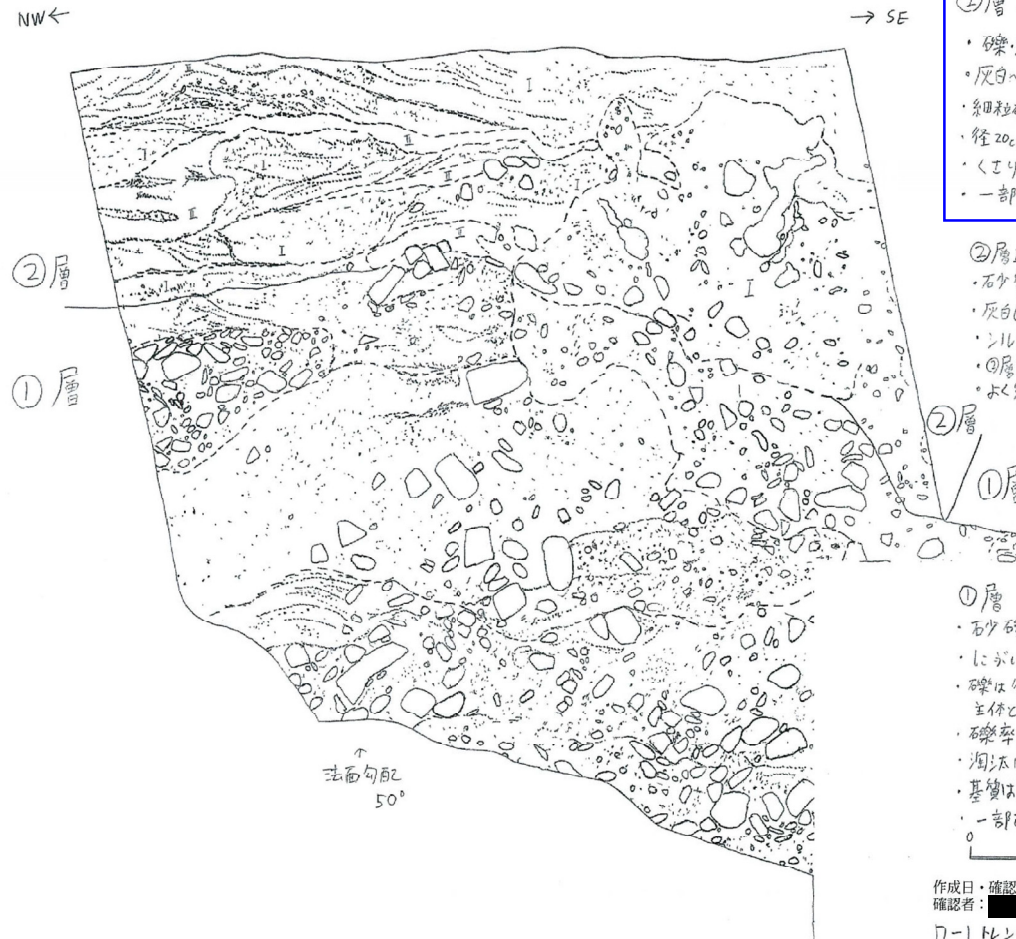
スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ② 1/20 スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位, スケール(または, グリッドの間隔)

○

スケッチ



②層 I

- 礫・シルト混じり石少
- 灰白~灰黄(2.5Y7/2 ~ 2.5Y7/4)
- 糸田礫砂~粗粒砂 が多い
- 径 20cm 以下の Gr・Gp 礫を含む
- くさり礫が混じる
- 一部でラミが露出している

②層 II

- 石少シルト
- 灰白(2.5Y7/1)
- シルトを主体とし、糸田礫砂が混じる
- ②層 I 中に層状~乱層状に多く混みれ分布する
- よく糸帯を、ている

①層

- 石少礫
- にがい赤褐層(5YR4/3)
- 礫は径 50cm 以下の Gr・Gp の風化変質礫を主体とする
- 礫率 30~40%
- 淘洗は悪い
- 基質は粗~中粒石で固く締まっている
- 一部で弱い西酸化を受けている

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]
 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 1/20 ②

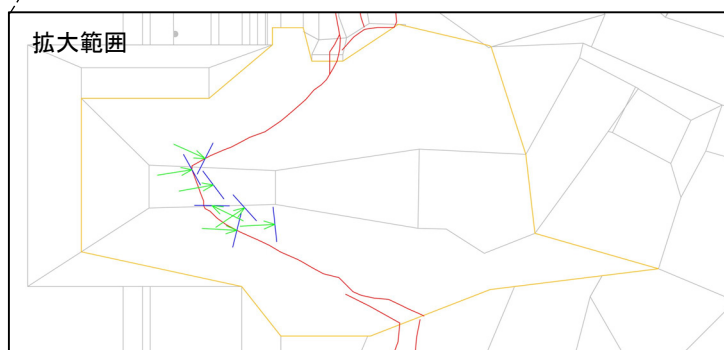
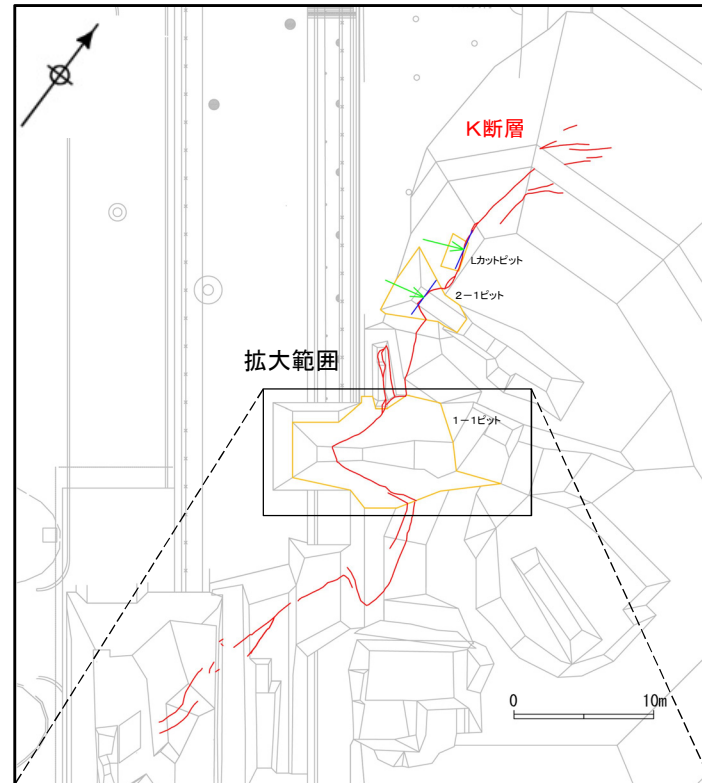
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット下段_②層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図 ピット下段 ①ふげん道路	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。		
スケッチ原図 ピット下段 ②ふげん道路 I 層	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 ② 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩垂角礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・含まれる礫の礫径は最大径(40cm)とした。 ・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図 トレンチ下段 ②ふげん道路 II 層	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 ②層 I 中に層状～レンズ状に多く挟まれて分布する。 よく締まっている。			

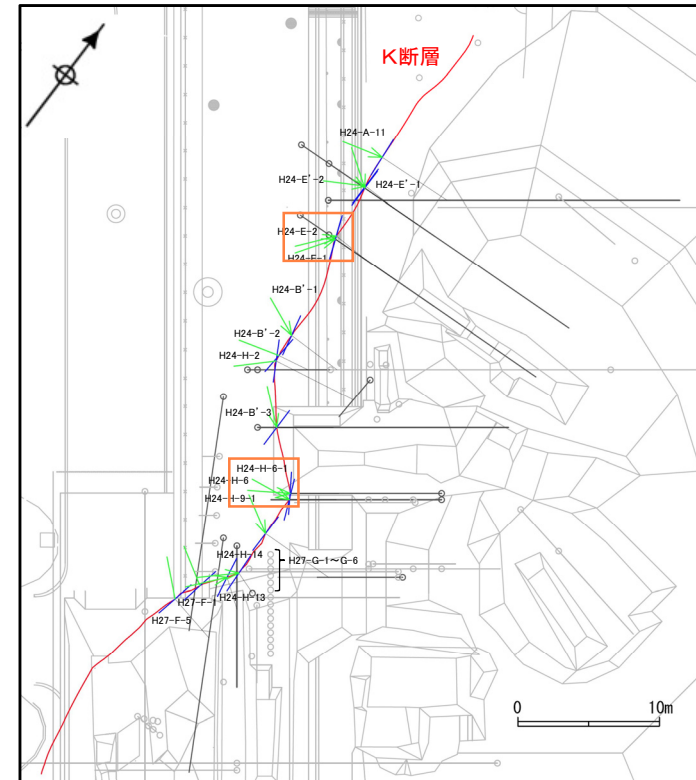
余白

K断層の性状

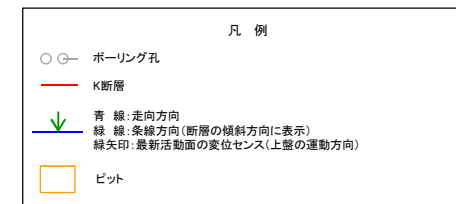
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は、1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが、大局的にはN-S走向、高角度西傾斜、最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)

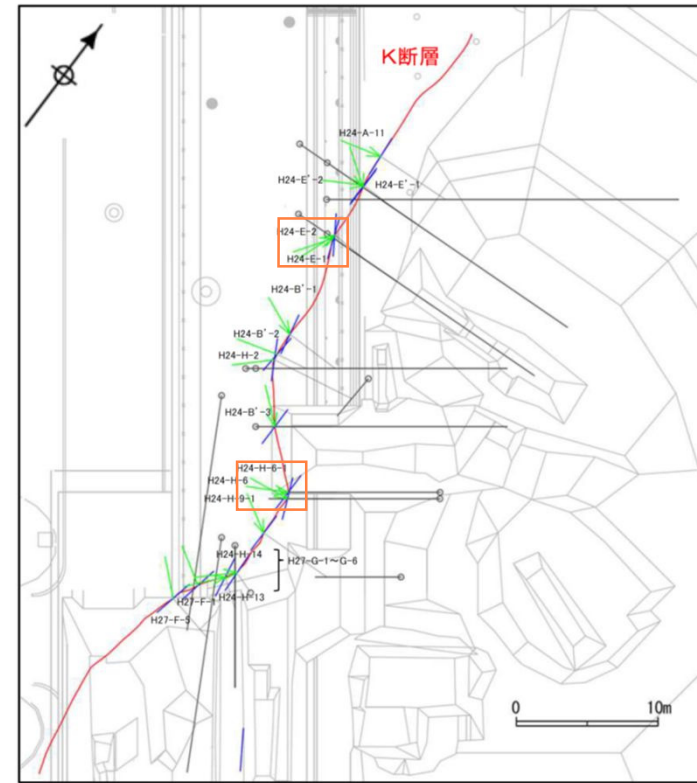
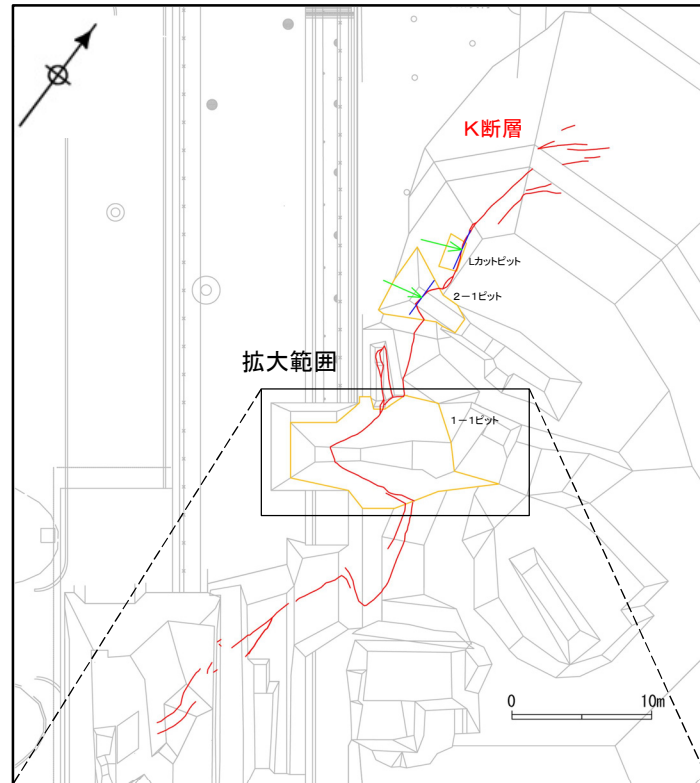


K断層の性状

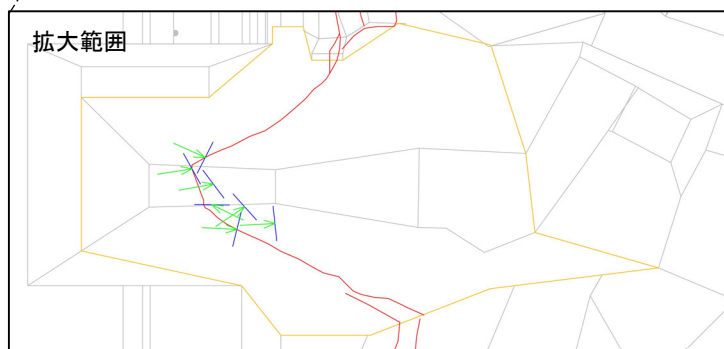
157:2~5, 7, 8の最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

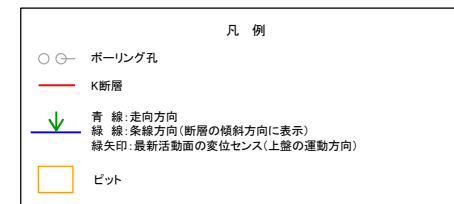
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は, 1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが, 大局的にはN-S走向, 高角度西傾斜, 最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



余白

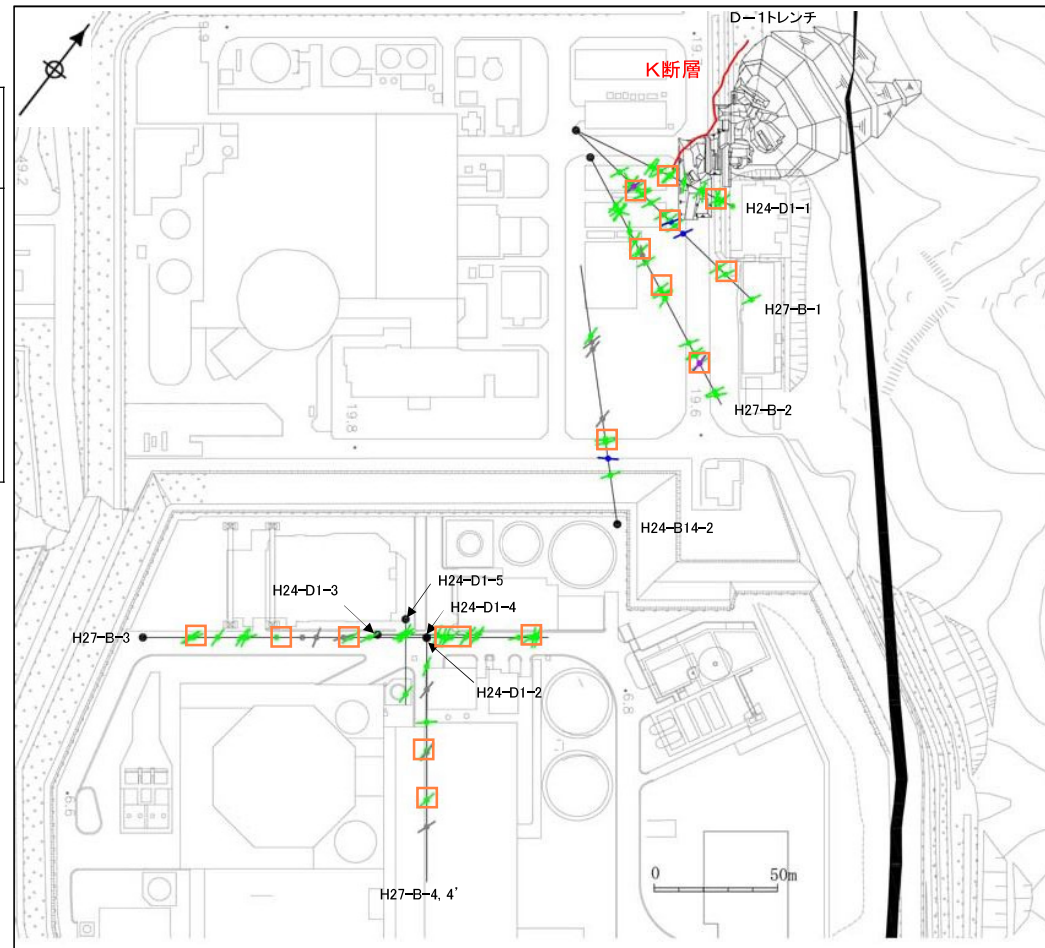
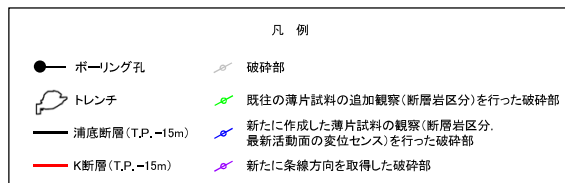
K断層の連続性評価について

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

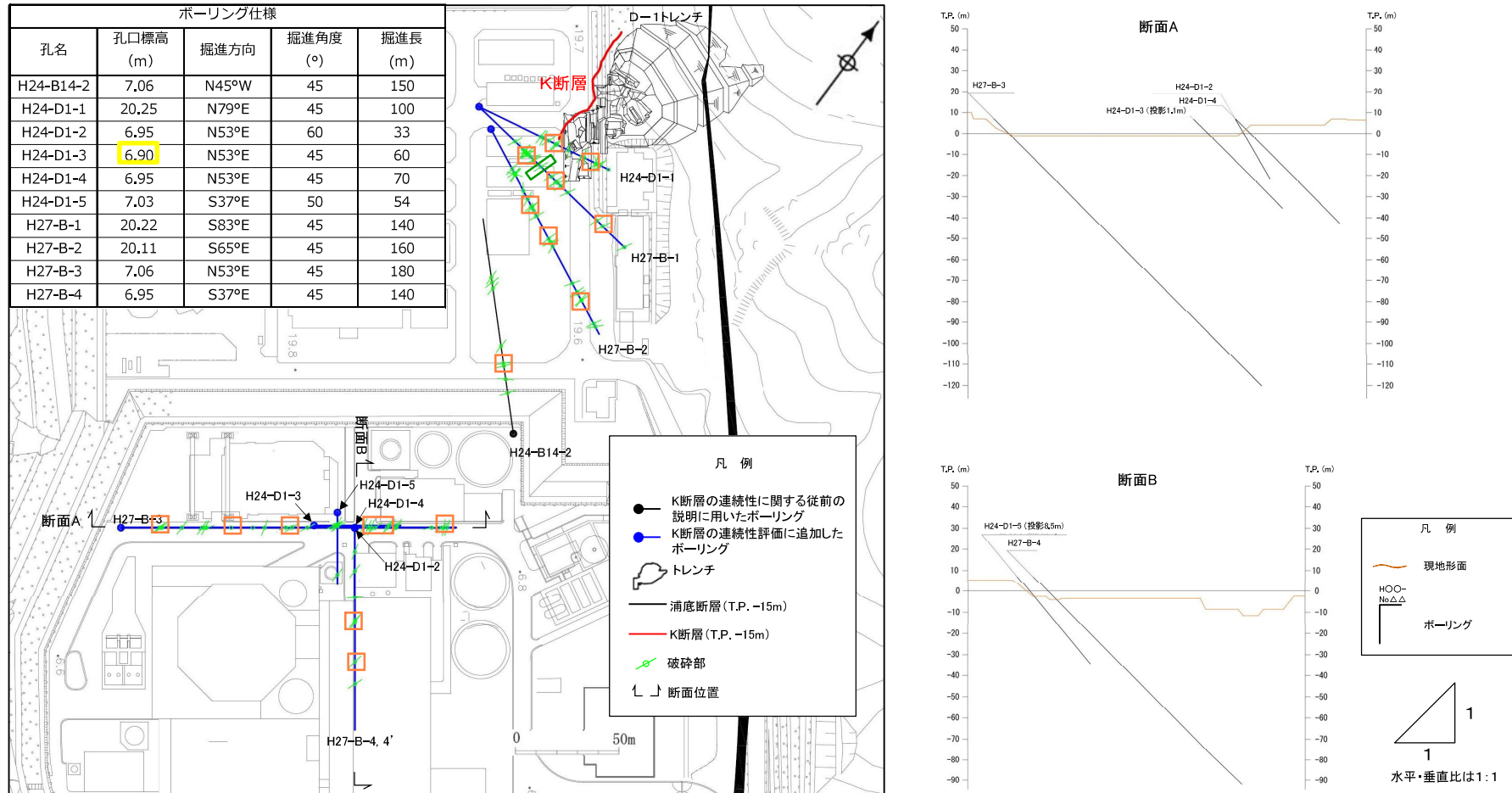


追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

K断層の連続性評価に関する従前の説明からの追加データ

- ・ 主要な論点の一つに「敷地内のD-1 トレンチ内に認められるK断層の活動性及び原子炉建屋直下を通過する破碎帯との連続性等の調査・評価結果を従前の説明に加えて申請時の最新知見に照らして説明すること。」がある。
- ・ このうち、K断層の連続性評価については、従前の説明ではK断層と2号炉原子炉建屋等の重要施設の間を横断するH24-B14-2孔を代表させて、K断層の南方にはK断層の性状と類似する破碎帯が無いことを示してきた(K断層とは性状が類似しないD-1破碎帯については、H24-D1-1～5孔の該当箇所を示してきた)。
- ・ K断層の連続性に関する従前の説明に用いたデータに加え、K断層と重要施設の間に位置する**10孔のボーリング**のデータ(破碎部の走向・傾斜、断層ガウジ・断層角礫の有無、条線方向、最新活動面の変位センス)も踏まえたK断層の連続性検討結果を示す。



K断層南方の調査位置および対象のボーリング仕様

K断層の連続性評価の考え方

157 : K断層南方10孔の破碎部のうち、最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

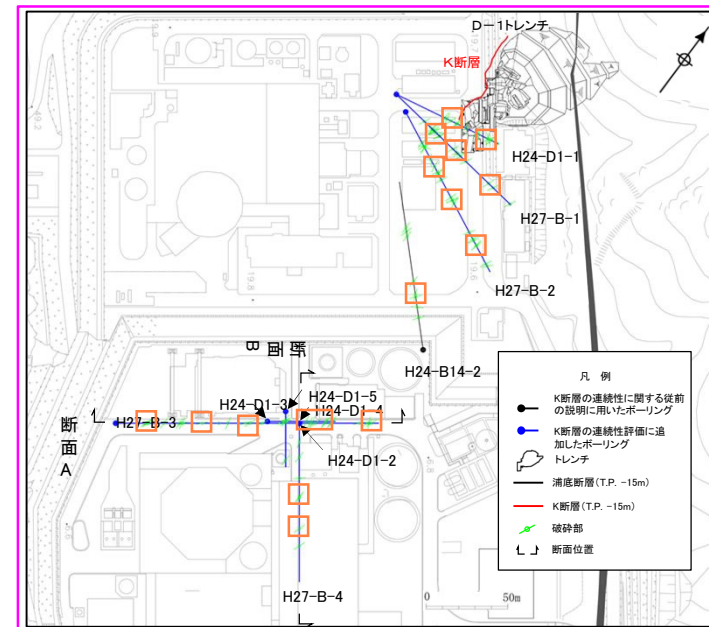
K断層の原子炉建屋直下方向への連続性を確認するための考え方を以下に示す。

敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づく検討(方法1)

K断層についても、敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づき、K断層が確認されているD-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の検討を実施する。

ボーリング仕様				
孔名	孔口標高 (m)	掘進方向	掘進角度 (°)	掘進長 (m)
H24-B14-2	7.06	N45°W	45	150
H24-D1-1	20.25	N79°E	45	100
H24-D1-2	6.95	N53°E	60	33
H24-D1-3	6.90	N53°E	45	60
H24-D1-4	6.95	N53°E	45	70
H24-D1-5	7.03	S37°E	50	54
H27-B-1	20.22	S83°E	45	140
H27-B-2	20.11	S65°E	45	160
H27-B-3	7.06	N53°E	45	180
H27-B-4	6.95	S37°E	45	140

注：H27-B-4 孔には再掘削孔であるH27-B-4'孔を含む



K断層南方の調査位置および対象のボーリング孔と仕様

K断層の連続性評価における更なる検討(方法2)

K断層の連続性評価においては、いずれかのボーリング孔において、K断層と類似する破碎部が存在しなかった場合においても、K断層に関する有識者会合での指摘^(注)やK断層が短区間で屈曲する特徴を有していることを踏まえ、D-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施する。(方法2-①)

また、念のため、対象ボーリング孔で確認された全破碎部に関して、K断層の性状(K断層との走向・傾斜の差を含む)との比較を実施する。(方法2-②)

(注) 評価書の総合評価：K断層の連続性については、D-1トレンチ及び原電道路ピットよりも南方へ連続している可能性があり、D-1破碎帯等、原子炉建屋直下を通過する破碎帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない。

余白

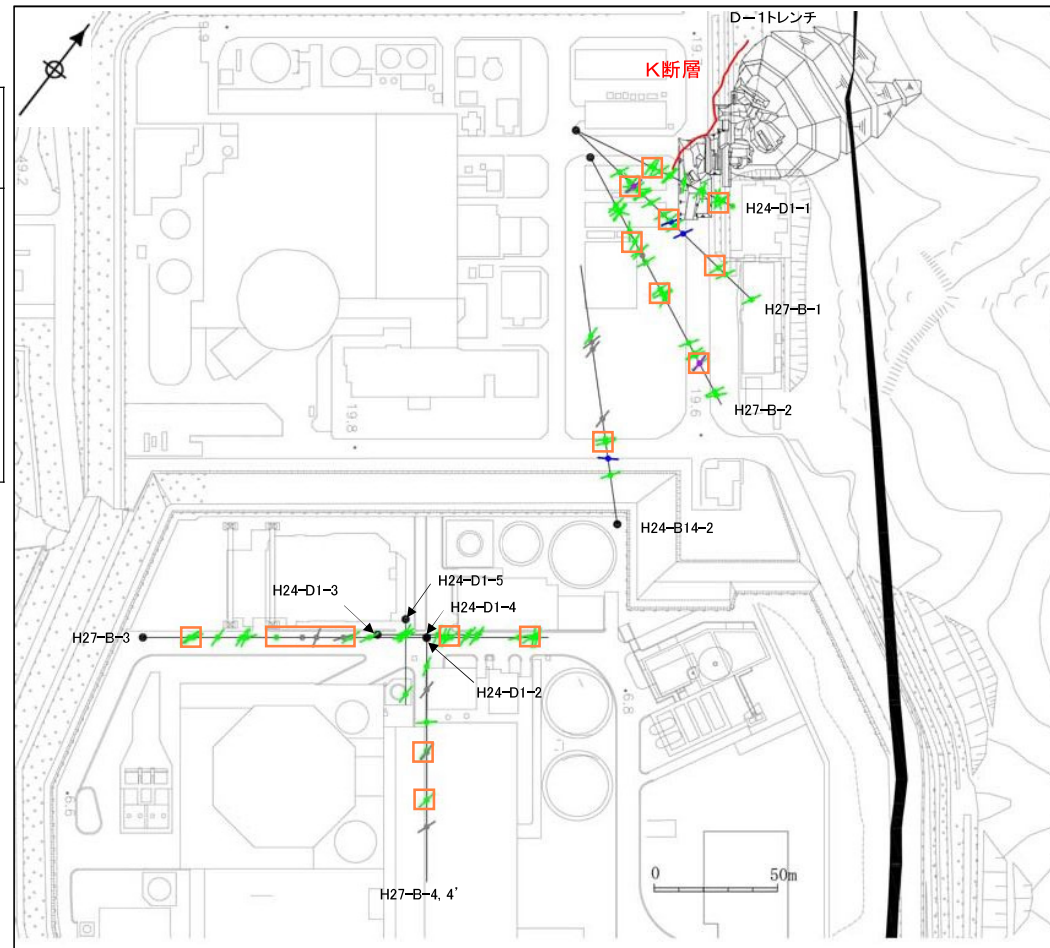
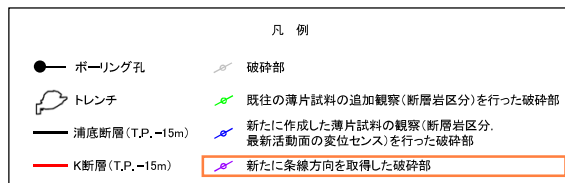
K断層の連続性評価について

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>



追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、**第833回審査会合までに追加観察や追加データの取得を行った。**追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- **断層岩については、より詳細な観察データである薄片観察を実施している場合は、連続性評価には薄片観察による評価を用いることとした。**
- **また、今回、追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。**

第833回審査会合までに実施した追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

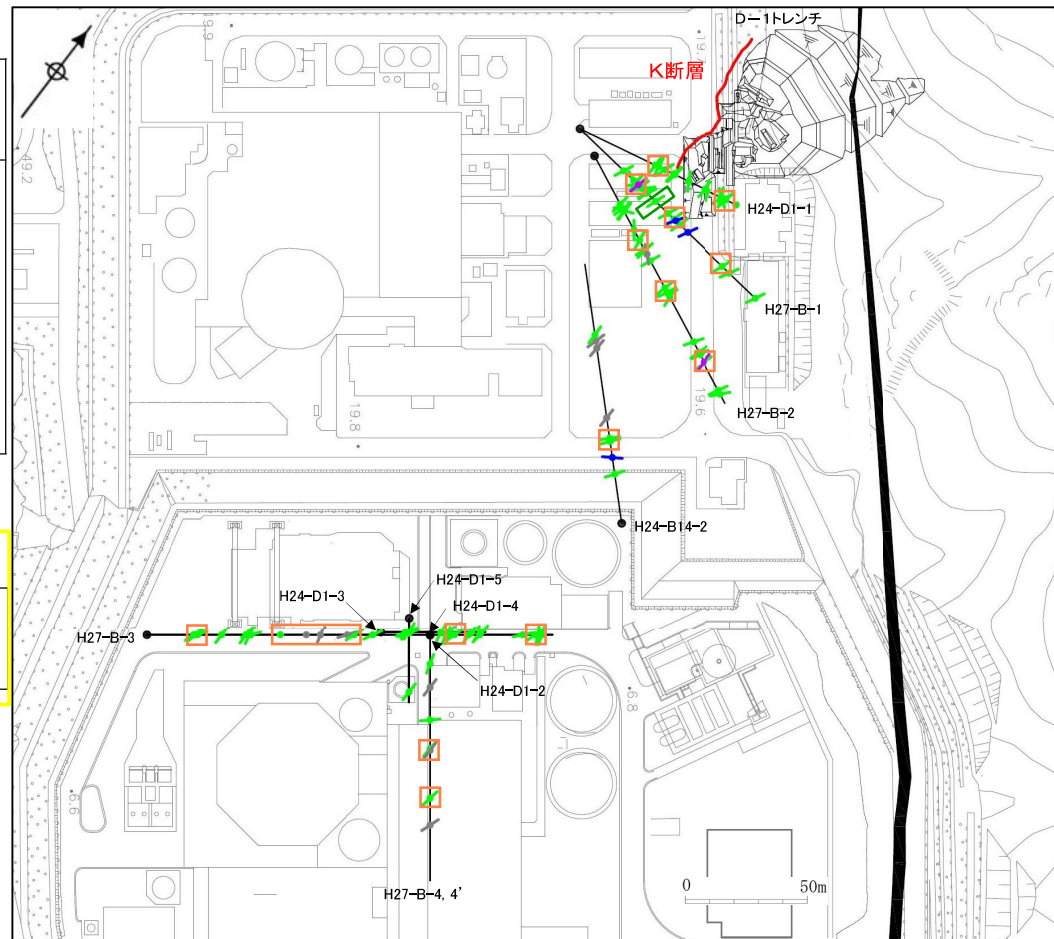
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施</p>
----------------	--

凡例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層 (T.P., -15m)
- K断層 (T.P., -15m)
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破碎部
- 既往の薄片試料の追加観察(断層岩区分)を行った破碎部(※)
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察(断層岩区分、最新活動面の変位センス)を行った破碎部(※)
- 第833回審査会合までに新たに条線方向を取得した破碎部

※ 今回、追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。



追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

・K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。

第833回審査会合までに実施した追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

157：K断層南方10本の破碎部のうち、最新活動面深度及び走向・傾斜が変更になった箇所、新たに薄片観察を行った箇所（薄片追加作製）を反映

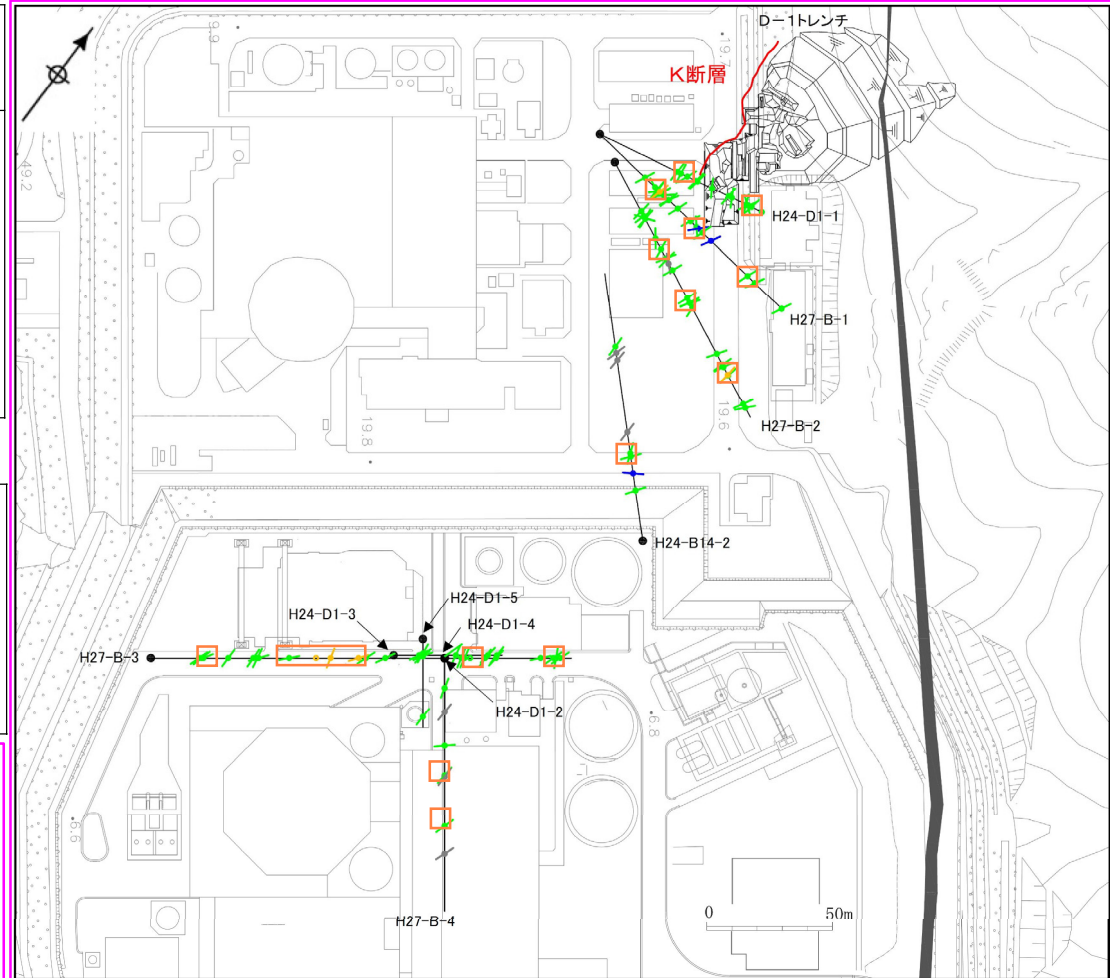
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>⑤最新活動面の変位センス及び断層岩区分：肉眼観察で断層ガウジと評価された破碎部のうち、最新活動面の変位センスや断層岩区分を取得していなかった破碎部について薄片試料を作製し、データを追加</p>
----------------	--

凡例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層 (T.P. -15m)
- K断層 (T.P. -15m)
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破碎部
- 既往の薄片試料の追加観察 (断層岩区分) を行った破碎部 (※)
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察 (断層岩区分, 最新活動面の変位センス) を行った破碎部 (※)
- 第839回審査会合以降に新たに薄片観察 (断層岩区分, 最新活動面の変位センス) を行った破碎部

※ 追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。

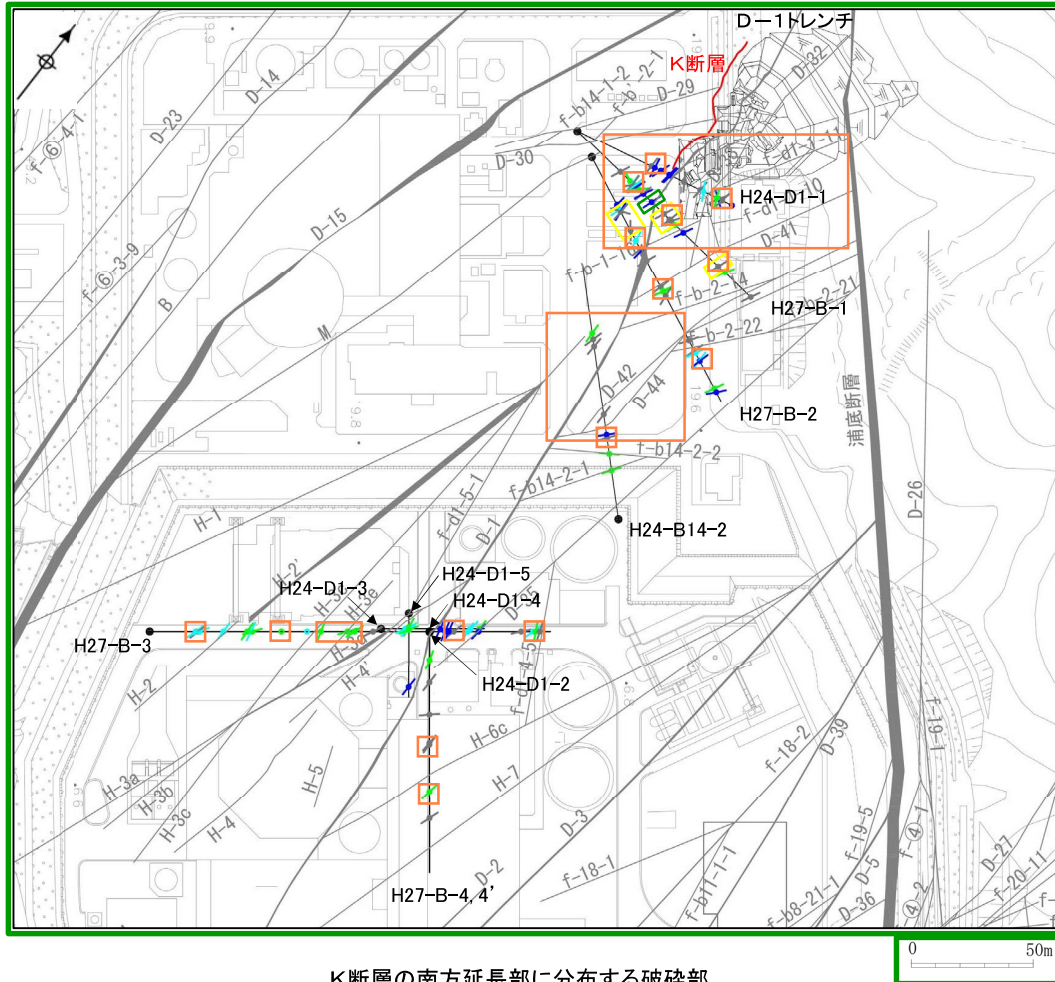


追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

K断層の連続性評価結果

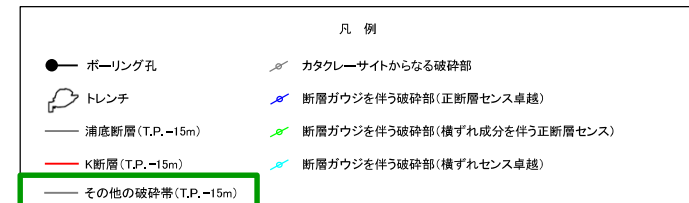
- K断層は、D-1トレンチの北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において連続して認められる。
- K断層の変位・変形量は、南方(ふげん道路ピット)に向かって減少している。
- 従前の説明から拡充したデータ(全10孔のボーリングデータ)も含め連続性を検討した結果、K断層南方の破碎部には、K断層の性状(N-S走向、高角度西傾斜、断層ガウジを伴う逆断層センス卓越)と類似するものは無い。
- 以上のことから、複数の観点から総合的に判断した結果、K断層はK断層南方の破碎部とは連続しないと判断される。



K断層の南方延長部に分布する破碎部



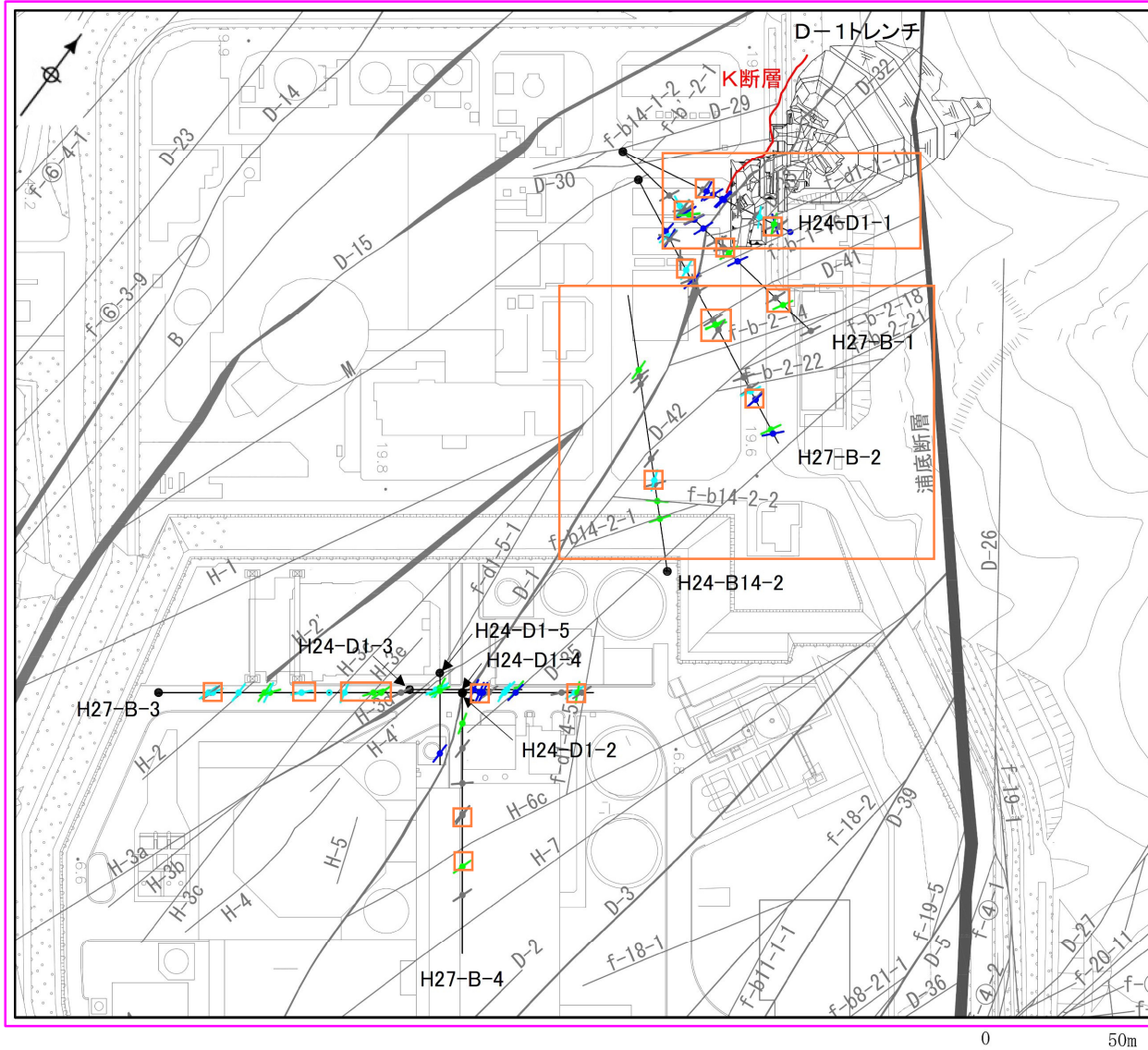
K断層はD-1トレンチより南方に連続せず、重要施設直下に連続しないことから4条対象破碎帯であると判断される。



48~51, 76, 157 : 走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い、関連する周辺破砕帯の分布を修正（具体的には、後掲の拡大図に記載）。

修正後

K断層の連続性評価結果(2/2)



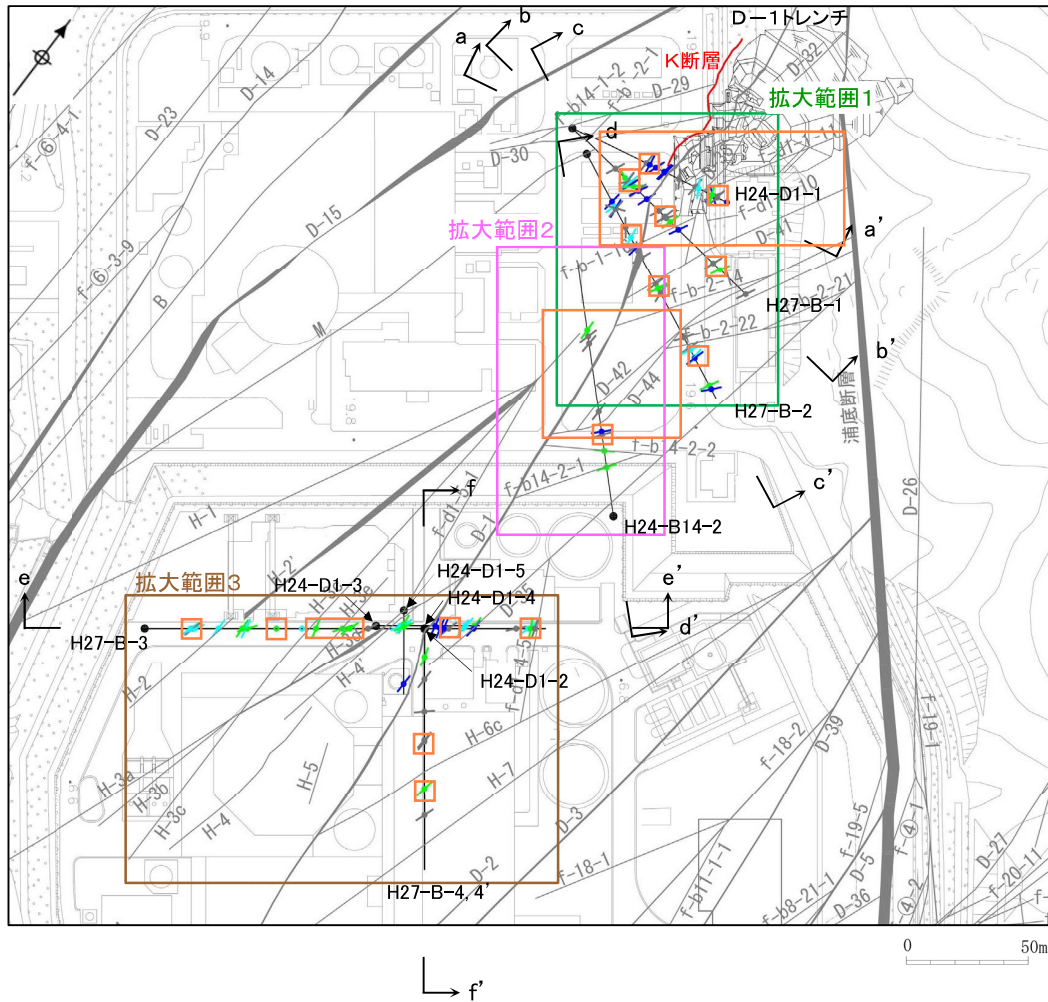
K断層の南方延長部に分布する破砕部

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
▲	カタクレーサイトからの破砕部
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

平面拡大範囲と断面位置

修正前

・ K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。



a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
↗	カタレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

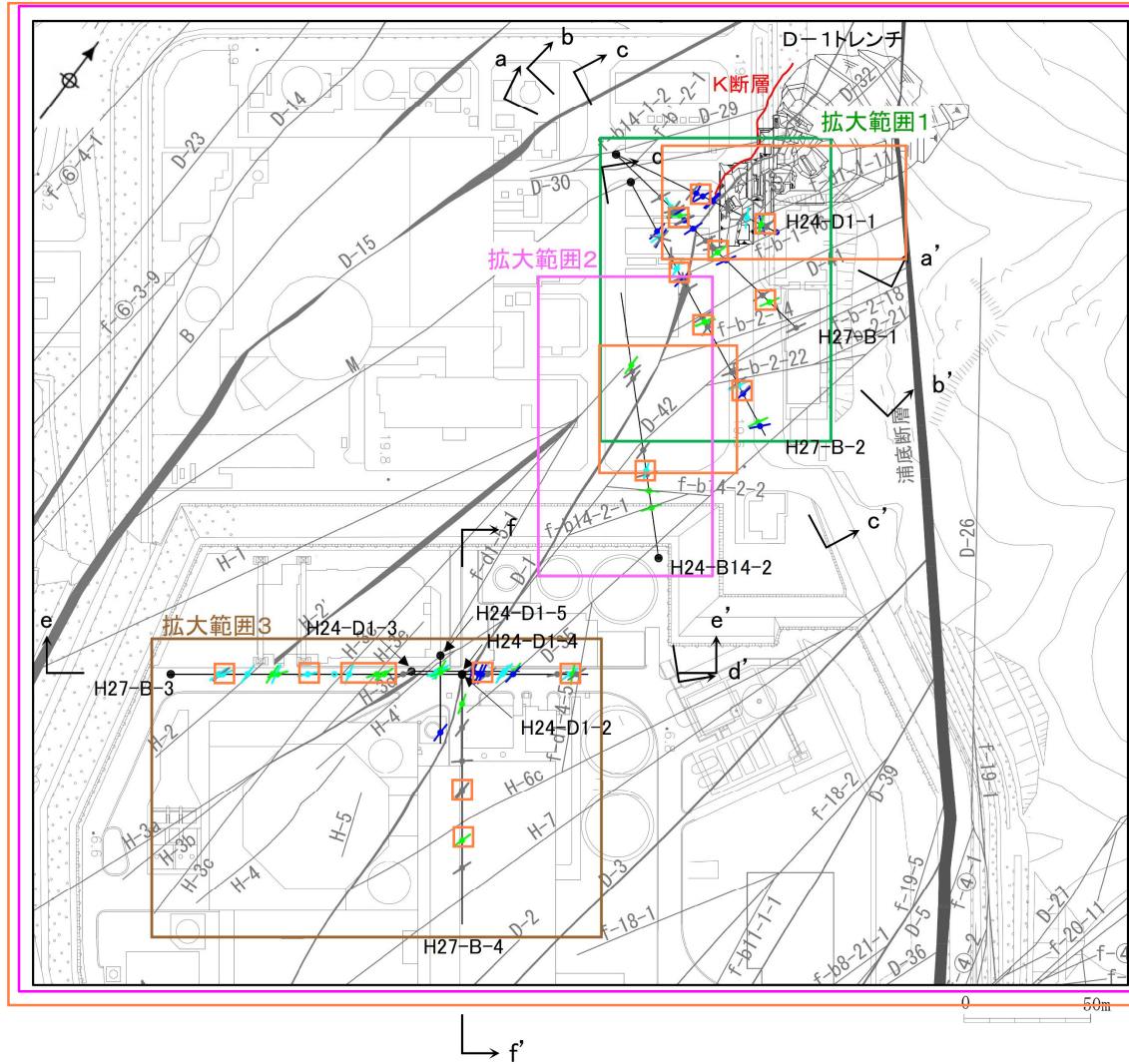
拡大範囲及び断面位置図

K断層の連続性評価について 平面拡大範囲と断面位置

48~51, 76, 157 : 走向・傾斜等の修正内容を反映。
これに伴い、関連する周辺破碎帯
の分布を修正（具体的には、後掲
の拡大図に記載）。

修正後

• K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。



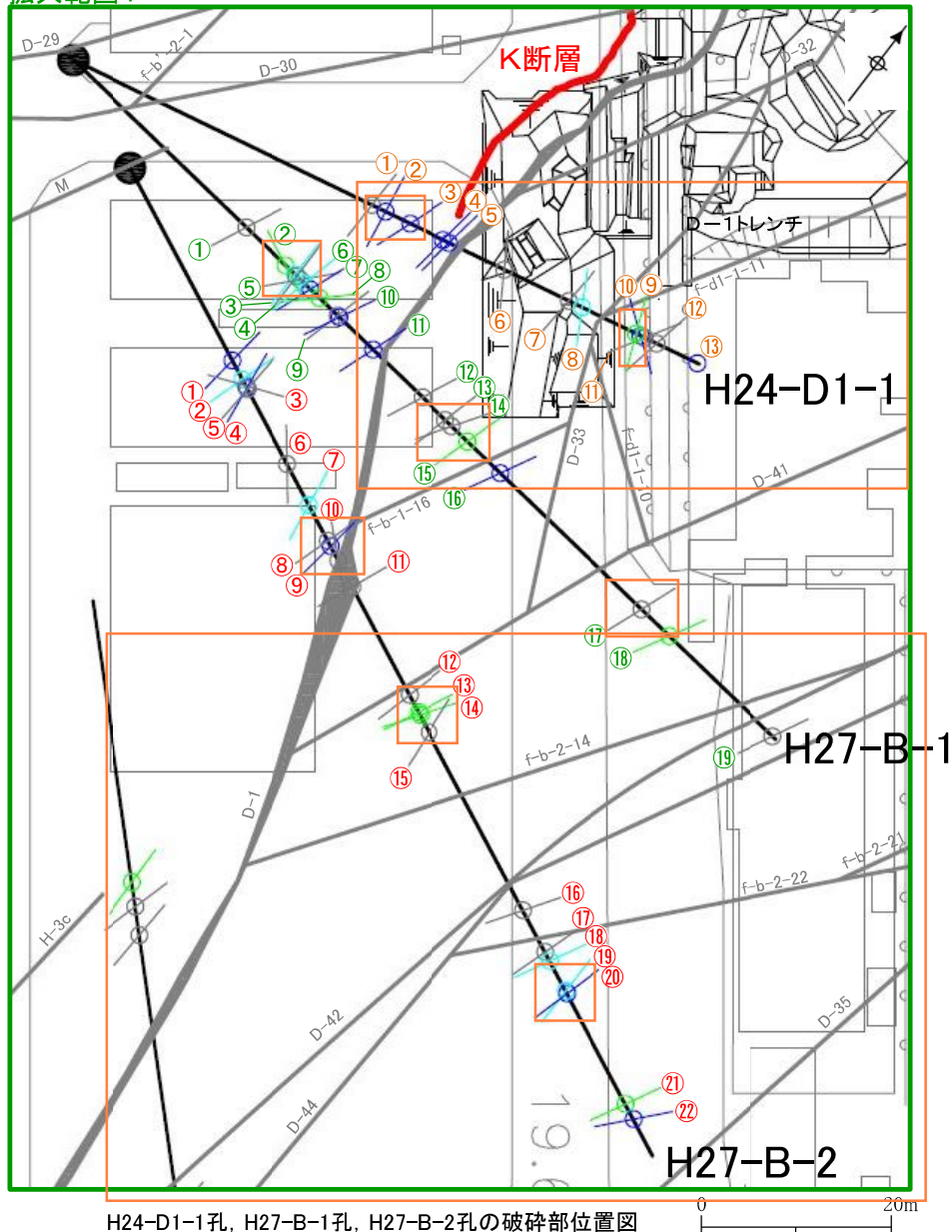
a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破碎帯 (T.P. -15m)
↗	カタクレーサイトからなる破碎部
↘	断層ガウジを伴う破碎部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれセンス卓越)

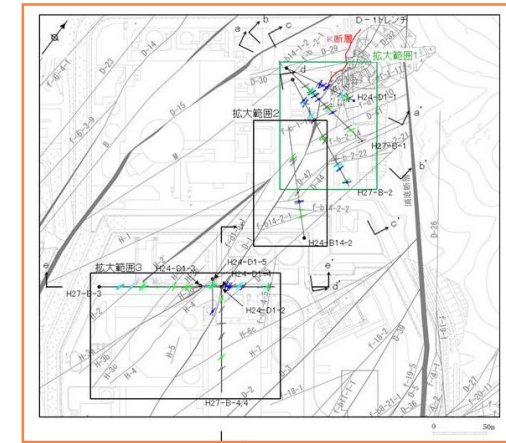
拡大範囲及び断面位置図

修正前

拡大範囲1



H24-D1-1孔, H27-B-1孔, H27-B-2孔の破砕部位置図



平面拡大範囲図

- ①: 破砕部番号 (H24-D1-1 孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-1 孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-2 孔)

凡 例	
●	ボーリング孔
—	破砕帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↗	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)